

スーパーマーケット販売統計調査資料

2024年8月実績 速報版
7月実績 確報版

(2024年9月20日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
非食品				日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他				テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2024年9月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2024年8月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	113,732,875	100.0%	104.9%	104.2%
食品合計	103,909,348	91.4%	105.1%	104.3%
生鮮3部門合計	38,021,925	33.4%	104.5%	103.7%
青果	16,026,728	14.1%	106.2%	105.7%
水産	9,502,768	8.4%	104.1%	103.3%
畜産	12,492,429	11.0%	102.7%	101.7%
惣菜	12,362,424	10.9%	105.2%	104.2%
日配	22,404,287	19.7%	101.4%	100.8%
一般食品	31,120,713	27.4%	108.6%	107.6%
非食品	6,874,712	6.0%	104.3%	104.1%
その他	2,948,868	2.6%	103.2%	103.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	15,666,908	43	103.5%	103.1%
関東地方	41,032,333	73	105.0%	104.6%
中部地方	14,263,322	53	105.0%	104.8%
近畿地方	25,258,857	44	104.6%	103.5%
中国・四国地方	11,577,395	34	106.7%	105.3%
九州・沖縄地方	5,934,060	23	104.5%	104.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	592,785	46	101.0%	102.6%
4~10店舗	4,953,511	84	104.0%	103.6%
11~25店舗	9,637,670	48	104.5%	104.9%
26~50店舗	19,892,577	46	103.9%	103.7%
51店舗以上	78,656,332	46	105.4%	104.3%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	112,612,856
総店舗数 (店舗)	8,404	店舗平均月商 (万円)	13,533
総売場面積 (㎡)	13,999,384	売場1㎡あたり売上高 (万円)	8.1

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2024年9月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2024年7月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	105,135,331	100.0%	101.3%	100.5%
食品合計	96,306,371	91.6%	101.5%	100.6%
生鮮3部門合計	34,914,129	33.2%	101.3%	100.4%
青果	14,200,294	13.5%	101.7%	100.9%
水産	9,066,328	8.6%	101.2%	100.9%
畜産	11,647,507	11.1%	100.9%	99.3%
惣菜	11,819,294	11.2%	102.9%	101.7%
日配	21,657,195	20.6%	99.7%	99.0%
一般食品	27,915,752	26.6%	102.7%	101.8%
非食品	6,397,838	6.1%	99.2%	98.9%
その他	2,431,174	2.3%	100.6%	100.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,031,471	43	98.8%	98.0%
関東地方	39,065,699	73	102.3%	101.5%
中部地方	12,740,621	53	100.1%	99.3%
近畿地方	23,108,430	44	101.9%	100.8%
中国・四国地方	10,675,291	34	101.9%	100.8%
九州・沖縄地方	5,513,820	23	100.9%	101.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	524,800	46	95.0%	96.2%
4~10店舗	4,520,549	84	99.7%	99.8%
11~25店舗	8,815,612	49	99.1%	100.1%
26~50店舗	18,112,333	45	100.9%	99.9%
51店舗以上	73,162,037	46	101.9%	100.8%

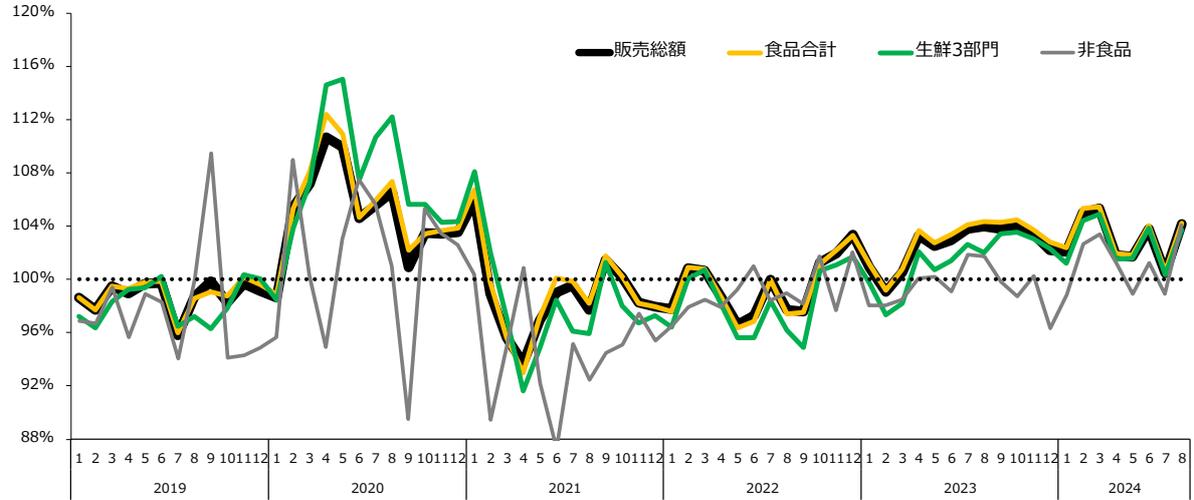
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	103,537,773
総店舗数 (店舗)	8,378	店舗平均月商 (万円)	12,549
総売場面積 (㎡)	13,977,813	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5

※売上高は税抜金額

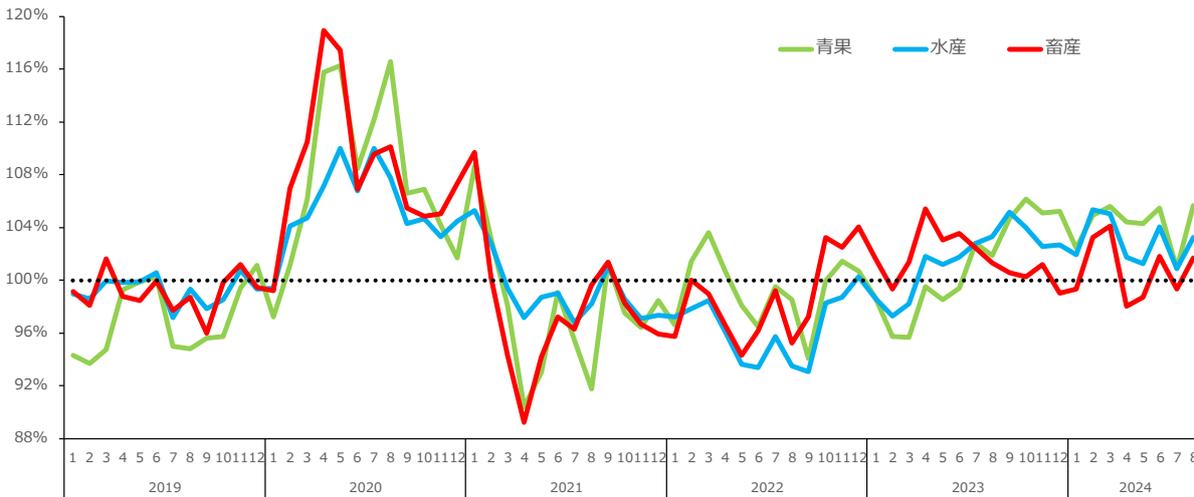
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比（既存店）推移 2019年1月～

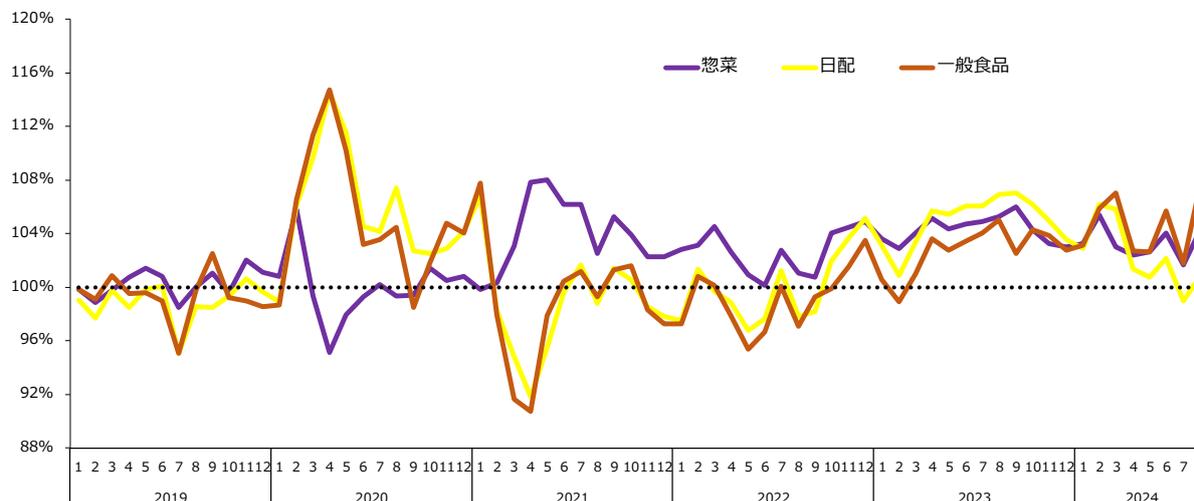
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2024年8月実績は速報版

2024年8月 エリア別気候状況

8月の気温：全国的にかなり高かった

上旬：東日本、西日本ではかなり高かった。北日本では高かった。

中旬：東日本、西日本ではかなり高かった。北日本では高かった。

下旬：北日本、西日本ではかなり高かった。東日本では高かった。

2023年8月との比較：上旬は西日本を中心に高く、中旬は東・西日本で低く、下旬は北日本で低く西日本で高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2024年8月 (今年)			2023年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.7	2.3	1.7	1.9	1.5	3.3	-0.2	0.8	-1.6
太平洋側	3.8	2.9	2.9	2.8	2.5	4.5	1.0	0.4	-1.6
東日本 日本海側	2.4	0.8	2.0	1.4	2.1	2.0	1.0	-1.3	0.0
太平洋側	3.5	0.7	3.1	1.8	2.3	1.9	1.7	-1.6	1.2
西日本 日本海側	3.0	0.2	2.3	1.0	1.7	1.2	2.0	-1.5	1.1
太平洋側	2.9	0.2	2.2	0.6	1.3	0.8	2.3	-1.1	1.4

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

8月の日照時間：西日本日本海側でかなり多かった

上旬：西日本日本海側、西日本太平洋側ではかなり多かった。東日本太平洋側では多かった。北日本日本海側では少なかった。

中旬：東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

下旬：北日本太平洋側、東日本太平洋側では少なかった。

2023年8月との比較：上旬から中旬にかけて西日本で多く、下旬は北・東日本でかなり少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2024年8月 (今年)			2023年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	88	99	91	99	112	158	-11	-13	-67
太平洋側	99	83	74	121	109	146	-22	-26	-72
東日本 日本海側	116	99	91	137	126	156	-21	-27	-65
太平洋側	128	122	72	111	114	136	17	8	-64
西日本 日本海側	147	137	106	106	101	124	41	36	-18
太平洋側	142	131	102	80	103	96	62	28	6

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

8月の降水量：東日本太平洋側でかなり多かった

上旬：北日本日本海側、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本日本海側、西日本太平洋側では少なかった。

中旬：北日本太平洋側、西日本太平洋側では多かった。北日本日本海側、東日本日本海側、西日本日本海側では少なかった。

下旬：東日本太平洋側、西日本日本海側、太平洋側ではかなり多かった。北日本日本海側、北日本太平洋側では多かった。東日本日本海側では少なかった。

2023年8月との比較：上旬は全国的にかなり少なく、中旬は西日本で少なく、下旬は全国的にかなり多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差		
	2024年8月 (今年)			2023年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	52	58	152	142	43	62	-90	15	90
太平洋側	58	138	167	99	110	22	-41	28	145
東日本 日本海側	12	21	73	7	44	17	5	-23	56
太平洋側	81	115	422	183	173	66	-102	-58	356
西日本 日本海側	12	25	229	121	110	49	-109	-85	180
太平洋側	24	108	311	204	202	134	-180	-94	177

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁ホームページ「2024年8月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2024年9月調査結果（8月実績）
（2024年9月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

景況感 現状、見通し判断共に大幅改善

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+6.4の51.6、見通し判断が前月から+4.5の47.2と共に大幅な改善をみせ、現状判断DIは5か月ぶりに判断の分かれ目である50を突破した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIは共に前月から二桁の上昇となり、プラス域を回復した。前年に比べ土曜日が1日多い曜日めぐりに加え、地震や台風に備える防災意識の高まりもあり、客単価DI、来客数DIともに大幅な上昇をみせた。全般的に相場高が続く生鮮品仕入原価DIも前月より小幅に上昇した。

カテゴリー動向調査では、DIが軒並み前月に比べ大幅な上昇となった。特に地震や台風に対する備蓄需要や、米不足報道による特需、猛暑の影響を受けた一般食品は、前月から+25.8と記録的な上昇となった。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、特に現状判断で大幅な改善をみせ、景気判断、消費者購買意欲判断DIは50台を回復した。見通し判断も、景気判断、消費者購買意欲判断DIに改善傾向がみられた。（長期傾向はP11参照）

8月は、日向灘を震源とする地震による「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表と神奈川県西部を震源とする地震が連続、お盆に台風7号、月末に台風10号が日本に接近、上陸するなど自然災害が多発、備蓄需要が急増。お盆休みと重なり飲料水の一時的な欠品も発生した。また米不足報道により欠品が長期にわたるなど、想定外の事態も発生した。今後も自然災害、気候変動の影響は一層強まるとみられ、商品調達や営業判断なども含めたBCPの策定、サプライチェーン全体の連携強化が求められるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：51.6 (+6.4)
前月：45.2

消費者購買意欲DI
当月：50.0 (+5.9)
前月：44.1

周辺地域 競合状況DI
当月：46.9 (+2.3)
前月：44.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：48.9 (+2.7)
前月：46.2

見通し判断

景気判断DI
当月：47.2 (+4.5)
前月：42.7

消費者購買意欲DI
当月：46.7 (+4.0)
前月：42.7

周辺地域 競合状況DI
当月：43.1 (+0.2)
前月：42.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.6 (+1.8)
前月：44.8

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：12.3 (+19.5)
前月：-7.2

客単価DI
当月：12.7 (+8.3)
前月：4.4

来客数DI
当月：3.0 (+12.7)
前月：-9.7

収益DI
当月：6.5 (+14.7)
前月：-8.2

販売価格DI
当月：19.2 (+2.1)
前月：17.1

生鮮品仕入原価DI
当月：21.0 (+4.8)
前月：16.2

食品仕入原価DI
当月：19.6 (+2.7)
前月：16.9

カテゴリー動向

青果DI
当月：15.3 (+16.9)
前月：-1.6

水産DI
当月：6.5 (+12.0)
前月：-5.5

畜産DI
当月：1.6 (+15.4)
前月：-13.8

惣菜DI
当月：12.9 (+8.4)
前月：4.5

日配DI
当月：-2.4 (+9.0)
前月：-11.4

一般食品DI
当月：22.1 (+25.8)
前月：-3.7

非食品DI
当月：1.7 (+12.3)
前月：-10.6

※DI値は前年同月との比較／（）内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から大幅に上昇、二桁プラス圏を記録

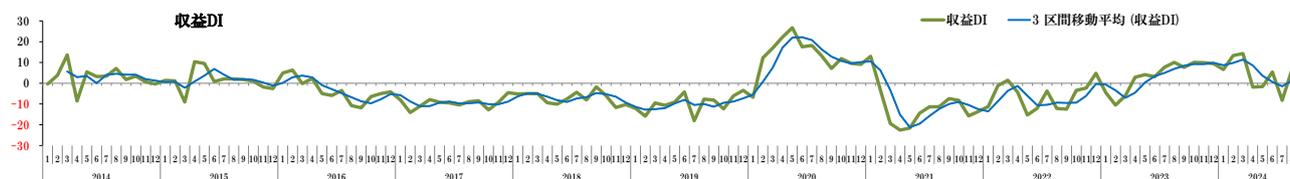
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	11.9	33.0	29.5	23.3	2.3	-7.2
売上高 (当月)	2.1	11.3	33.1	42.3	11.3	12.3



2. 収益DI

前月から大幅に上昇、プラス域に浮上

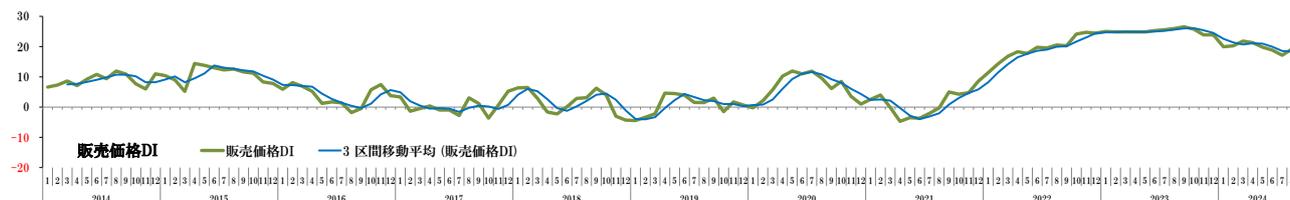
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.0	34.7	34.1	16.8	3.5	-8.2
収益 (当月)	5.1	17.4	33.3	34.8	9.4	6.5



3. 販売価格DI

前月から小幅に上昇、引き続き二桁プラスを維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.9	28.0	66.9	2.3	17.1
販売価格 (当月)	0.0	0.7	27.5	66.2	5.6	19.2



4. 客単価DI

前月から大幅に上昇、二桁プラス圏を記録

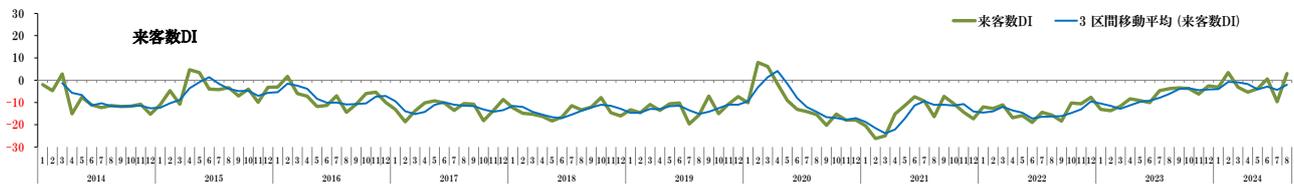
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.3	18.8	39.2	38.6	1.1	4.4
客単価 (当月)	0.0	9.2	35.2	51.4	4.2	12.7



5. 来客数 DI

前月から大幅に上昇、プラス域に浮上

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.0	41.1	33.1	17.1	0.6	-9.7
来客数 (当月)	2.8	21.3	39.0	34.8	2.1	3.0



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から上昇、引き続き二桁プラス水準を維持

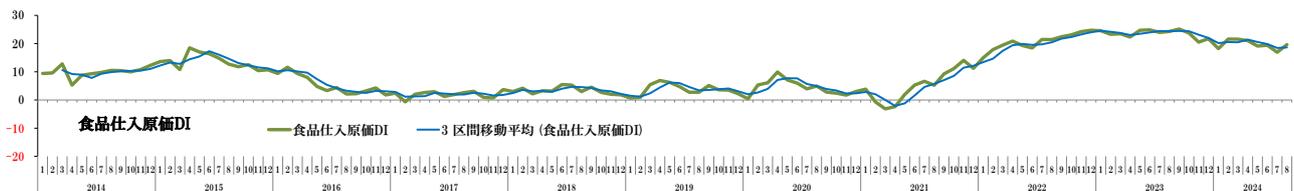
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.4	5.3	24.1	61.8	6.5	16.2
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	2.9	21.9	63.5	11.7	21.0



7. 食品仕入原価 DI

前月から上昇、40 か月連続プラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	6.0	24.0	61.7	7.2	16.9
食品仕入原価 (当月)	2.2	3.7	20.0	61.5	12.6	19.6

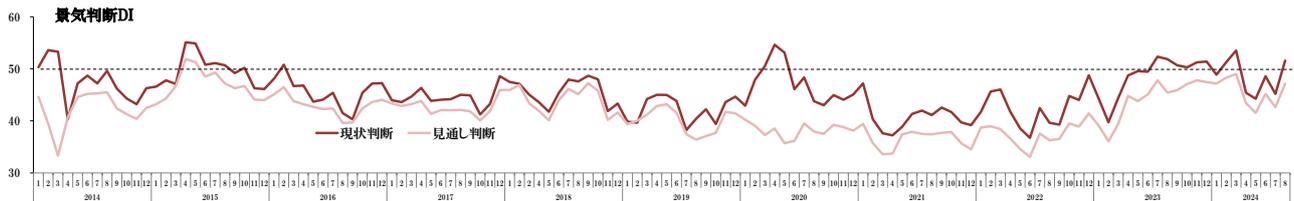


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は大幅に改善し 50 超え、見通しも大幅改善

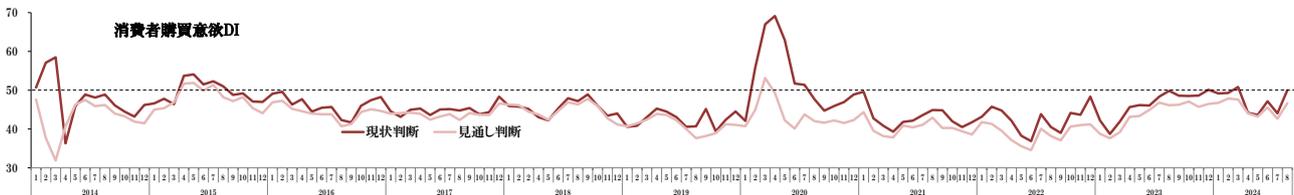
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.8	23.2	65.0	8.5	0.6	45.2
【現状】景況判断 (当月)	0.7	14.0	64.3	20.3	0.7	51.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.1	34.5	57.6	6.2	0.6	42.7
【見通し】景況判断 (当月)	2.1	20.6	64.5	12.1	0.7	47.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅に改善し 50 に到達、見通しも大幅改善

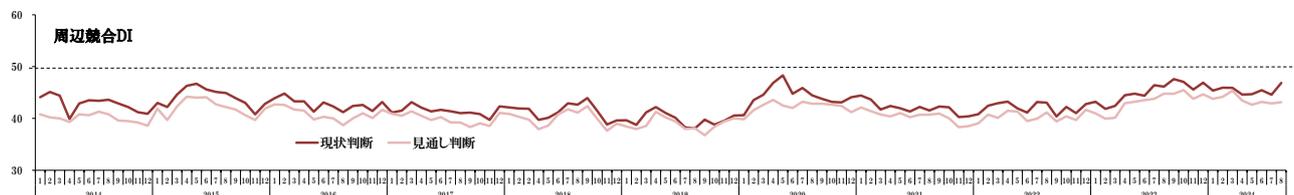
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.3	26.6	64.4	6.2	0.6	44.1
【現状】購買意欲 (当月)	0.7	16.1	66.4	16.1	0.7	50.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	35.6	58.8	5.1	0.6	42.7
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	22.5	66.9	9.2	0.7	46.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅改善、見通しは前月水準で推移

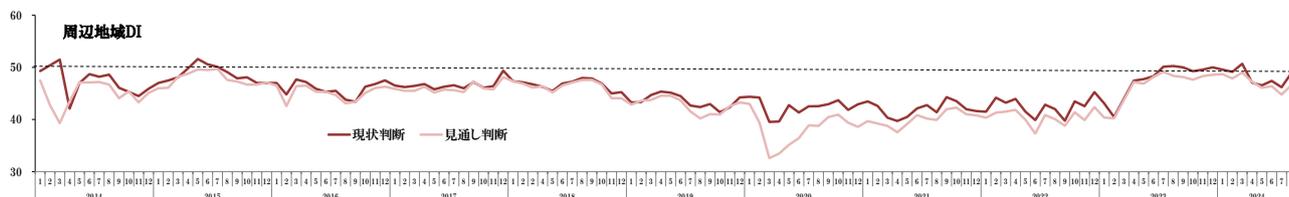
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.1	21.7	74.9	2.3	0.0	44.6
【現状】競合状況 (当月)	0.7	15.4	79.7	4.2	0.0	46.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.3	25.6	70.5	1.7	0.0	42.9
【見通し】競合状況 (当月)	2.8	23.2	72.5	1.4	0.0	43.1



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.6	18.1	77.4	4.0	0.0	46.2
【現状】地域景気(当月)	0.0	12.0	80.3	7.7	0.0	48.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	24.3	72.3	3.4	0.0	44.8
【見通し】地域景気(当月)	0.0	19.1	75.2	5.7	0.0	46.6

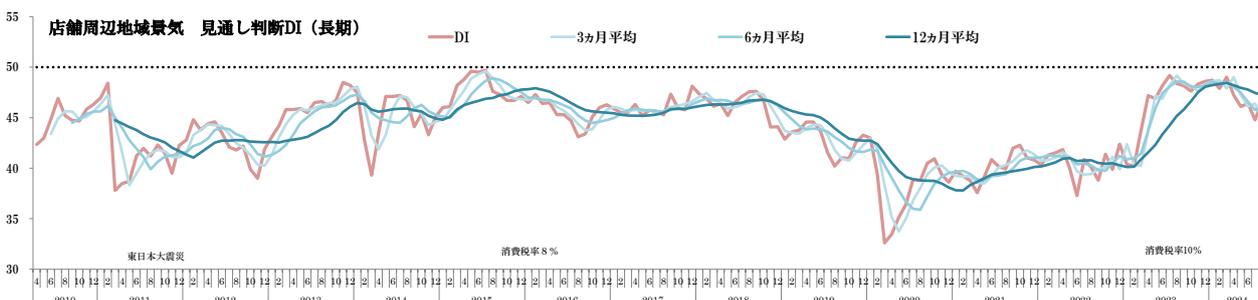


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月は現状判断DIが51.5を記録。14年4月の消費税率8%引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、2015年5月には現状判断DIは51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかし、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷。以後方向感の乏しい推移が続いたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下。20年2月に大幅に悪化した、その後持ち直しの動きが続いた。

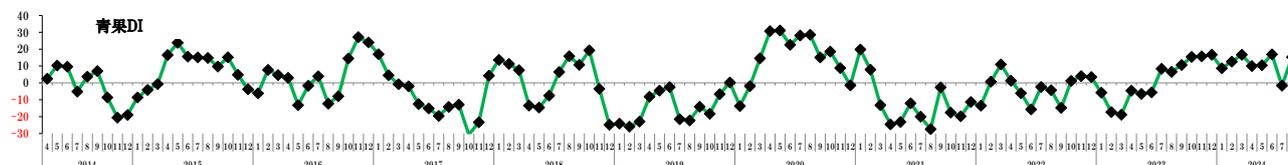
21年は、感染状況により上下に振られる動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化、感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持したものの24年4月に一転して大きく悪化し、その後は方向感のない推移が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：15.3（好調）

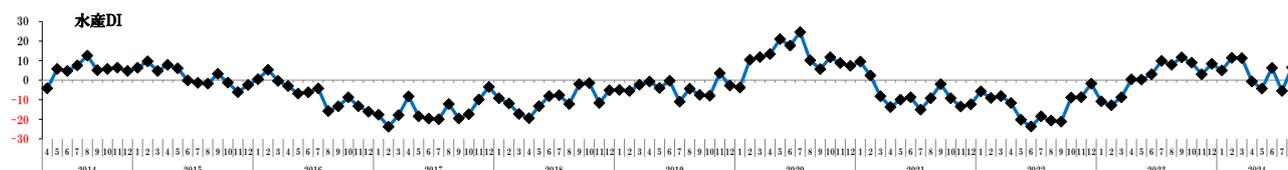
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	10.1	24.4	29.8	33.3	2.4	-1.6
青果（当月）	2.2	10.1	28.1	43.9	15.8	15.3



猛暑や天候不順により相場高の傾向で推移、一品単価が高水準のなか、買上点数が伸長した玉ねぎやジャガイモなどの土物、根菜類が特に好調となった。相場高により地場野菜の動きがよい。猛暑によりサラダ関連野菜のトマトやレタスが好調な一方で、キャベツやブロッコリーなどは苦戦した店舗が多い。果実は国産、輸入共に相場高の傾向が続くなか、スイカや桃、カットフルーツが好調だが、メロンや梨はやや伸び悩んだ店舗が多い。バナナは比較的好調となった。お盆時期の花きは好調とするコメントが多い。

2. 水産DI：6.5（やや好調）

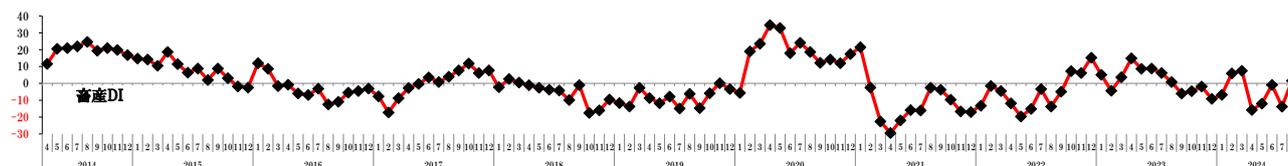
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	9.6	31.1	34.1	22.2	3.0	-5.5
水産（当月）	3.6	19.6	33.3	34.1	9.4	6.5



お盆時期は台風の影響を受けた地域もあったものの、全体的には刺身類や塩干類が好調。今年は土用二の丑があり、ウナギも好調だった。例年よりサンマの入荷が早かったことも販売に貢献した。鮮魚は価格が安定しているマグロやカツオ、サーモンなどの魚種を中心に好調。塩干は、しらすなどのちりめん類に回復がみられた。一方でカニやエビなどの冷凍水産品は価格高騰で苦戦。下旬は台風の影響で入荷量が減少し、商品確保に苦戦した店舗もみられた。

3. 畜産DI：1.6（やや好調）

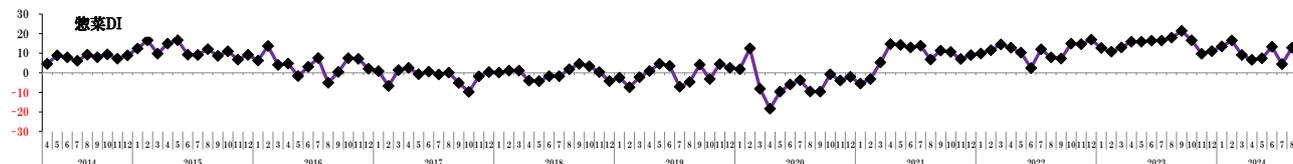
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	13.7	44.6	27.4	11.9	2.4	-13.8
畜産（当月）	7.2	23.7	30.2	33.1	5.8	1.6



国産・輸入ともに相場高傾向が続き、仕入値が過去最高を記録したという店舗も。夏休み、お盆時期であり牛肉の販売数量がやや回復傾向となった。豚肉の価格が再び上昇しており、不調となった店舗が多い。比較的値ごろ感のある鶏肉への需要シフト傾向は続いており、ひき肉や小間切れなどの低価格商品もよく動いたとのコメントが多い。加工肉は全般的に高値傾向にあり、苦戦が続いている。台風で備えた備蓄需要が発生したという地域もみられた。

4. 惣菜DI：12.9（好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.5	16.7	35.7	34.5	6.5	4.5
惣菜（当月）	2.9	8.1	34.6	43.4	11.0	12.9

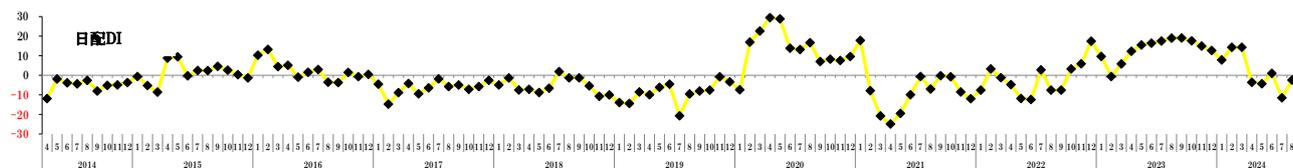


猛暑の影響で、特に涼味系の冷やし麺類や、夏を意識した惣菜類、サラダ類が好調に推移した。自宅での調理を敬遠する傾向により、天ぷらなどの揚げ物類が引き続き好調となった。米不足報道の影響で、おにぎりや米飯類が好調となったという店舗も。旅行や帰省を中止した人が多く都市部店舗での需要も高かった。

お盆時期のオードブルは、今年は少量サイズの動きがよいとのコメントがみられた。夏祭りや花火大会関連の販売が好調な店舗も多い。土用の二の丑は、国産は価格上昇で苦戦傾向。寿司は猛暑で持ち帰り敬遠も。

5. 日配DI：-2.4（やや不調）

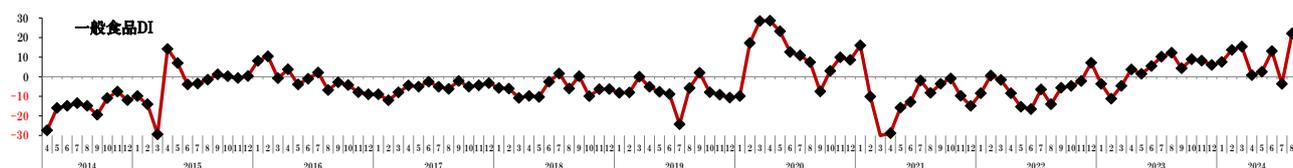
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	10.8	39.8	35.5	12.0	1.8	-11.4
日配（当月）	8.9	22.2	43.0	21.5	4.4	-2.4



全般的に猛暑によりアイス・氷菓、飲料、涼味麺など夏物商材の販売が好調で、豆腐の動きもよいとのコメントが多かった。米不足報道の影響を受けてか、パン類や麺類の動きがよい。伸びが鈍化していた牛乳・乳製品にも回復傾向がみられた。冷凍食品は引き続き好調。納豆や漬物など日配は点数減の影響が大きい。卵には、前年の相場高からの反動減がみられた。台風による備蓄需要が販売を底上げした店舗があった一方で、臨時休業などの影響を受け、売上減やロスが発生した店舗もみられた。

6. 一般食品：22.1（かなり好調）

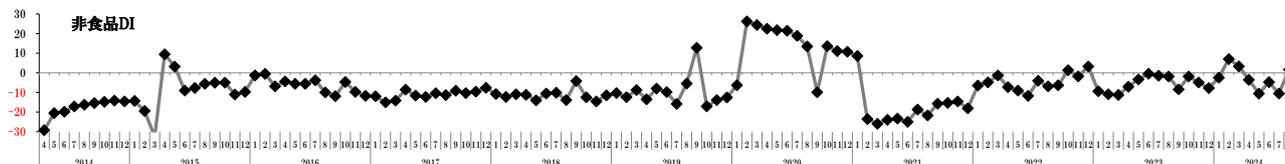
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.5	29.3	34.1	24.4	3.7	-3.7
一般食品（当月）	0.7	5.8	23.4	44.5	25.5	22.1



マスメディアによる米不足報道が影響し特需が発生、多くの店舗で欠品が続き、問い合わせや行列、クレームが発生した。レンジ米飯、レトルト米飯、餅などの関連商品にも影響が波及している。また、地震や台風への備えとして、防災関連商品として、水や缶詰類、レトルト食品、インスタント食品、シリアル類などの需要が高まり、ミネラルウォーターが一時的に欠品した店舗も多かった。猛暑の影響で飲料が好調、乾麺やめんつゆ、調味料の動きもよかった。一方で酒類はビール、ノンアルコールは好調も、それ以外は伸び悩んだ。

7. 非食品DI：1.7（やや好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.7	33.5	35.4	16.1	1.2	-10.6
非食品（当月）	4.6	26.0	36.6	23.7	9.2	1.7



地震や台風への備えとして、乾電池やガスボンベ、紙製品などに幅広く特需がみられ、全般的に好調となった。猛暑により虫ケア用品や防虫剤、洗濯洗剤、入浴関連などの動きがよく、お盆の関連商品も比較的好調となった。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2024年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 防災意識の高まり、備蓄需要
2. 米不足報道による欠品の長期化
3. 相次ぐ台風の影響

（参考）2023年9月調査（8月実績）キーワードTOP3

1. 帰省客の増加によるお盆商戦好調
2. 猛暑による夏物・涼味商材、惣菜好調
3. 値上げによる単価増と点数減

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 143社
 7月実績確報版 177社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp